

て持^テやかかねけん。

釣がねおちやうちん賣にことづけて

どあるなどや、はじめて物に見えたるならむ。

〔梅園叢書〕人のあしきを捨てよきを取れといふ訓

物の直からむ事を欲せば、準繩規矩を用ふべし、これをばさしおきて、杓子を取りて、定規とせんには、千萬年を歴るとも、直くはなるまじきことなり、今の人悪しきを取りて、身の過を覆ふは、これぞ誠の杓子定規なるべし。

〔萬葉集五〕貧窮問答歌

雜歌

山上憶良○中

飯炊事毛和須禮提奴延鳥乃能杼與比居爾伊等乃伎提短物乎端伎流等云之如楚取五十戸良加許惠波寢屋度麻底來立呼比奴○下

〔老人雜話上〕太閤小田原陣の前に、關東土地の圖を見る、東照宮近侍す、時に眞田阿波守末席にあり、太閤の云、阿波來て圖を見よ、汝を中山道の先手に云付るといへり、此時は家康と同輩に呼て圖を見せ玉ふこと、國郡を何程拜領したらんよりも忝かりしと云、阿波守は伊豆守が父也、東照宮と意趣ありて、中惡き人也、其後太閤阿波を近ふ召て云、汝家康へ禮に往て、間をよくすべし、長き物には卷れよと云事あり、旅にて不如意ならんとて、裕二枚進物までを遣され、富田左近を副て遣はさる。

〔漢語大和故事二〕大物ハハツリドリ。コノ諺ハ、萬事功ヲ積テ成就スベシ、急速ニハ成ガタシト

イハンタメニ、大ナル物ハ少ヅ、ハツリトレトハイフナリ、

〔下學集下〕

態藝下師子身シシ中虫ウツムシ能食シ其肉シ故身シ中生シ虫シ自食シ其肉シ也、見仁シ王經シ矣、不

〔義經記二〕義經みささぎがたちをやき給事